日 本 国 際 教 育 学 会

JIES NEWSLETTER

December 2010　No.22

ニューズレターダイジェスト

○　学会長挨拶
○　第 21 回大会報告
○　大会収支報告
○　総会議事録
○　決算報告と予算案
○　2011 年春季大会の案内
○　事務局だより
○　紀要『国際教育』第 17 号原稿募集
○　図書紹介

第 21 回大会基調講演
（2010 年 9 月 11 日、仙台白百合女子大学）

学会長挨拶

第 21 回大会を終えて

会長　前田 耕司（早稲田大学）

学期はじめで何かとご繁忙ななか、日本国際教育学会第 21 回大会にご参会いただきまして深く感謝申し上げます。

また、今大会も国立暨南国際大学の楊武勲会員、並びに台北教育大学の翁麗芳会員をはじめ台湾からおいでの多くの会員の皆様をお迎えできました。衷心より御礼申し上げます。

さて、本大会は 9 月の 11、12 日の 2 日間で 35 件の自由研究発表がありました。20 回大会の 44 件には及ばないものの首都圏以外で開催した大会としてはこれまででもっとも盛会なものとなりました。とくに東北大学名誉教授の岩田靖夫先生には国際平和教育の根源的な理念に関わる基調講演（「希望のそよ風－世界平和の実現に向けて－」）を、また楊武勲会員には台湾の高等教育戦略についての基調講演（「台湾高等教育機関における華僑子女の受け入れ戦略と課題」）を賜り、国際教育学にとって貴重な示唆を得ました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、何よりも本大会施設をご提供下さり、スクールバスの手配・便宜を図っていただきました仙台白百合女子大学人間学部長の牛渡淳大会実行委員長、また大会開催の準備等でご尽力いただいた大迫章史事務局長をはじめとする実行委員の皆様には会員を代表しまして心からお礼と感謝の言葉を述べたいと思います。

実は、私事で恐縮ですが、仙台白百合女子大学は私にとっても縁のあるところでございます。牛渡淳会員から国際教養学科立ち上げにあたり集中講義を仰せつかり、3 年あまり勤めさせていただいたことがございます。このように私にとっても思い出深い場所での大会開催となったわけで非常に感慨深いものがあります。

さて、昨年の研究大会からこれまでを振り返ってみますと、まずは、本学会が創立 20 周年年を迎えたことを受けて、20 周年記念年報の刊行を行いました。内容は昨年の研究大会の自由研究の発表（投稿論文）や課題研究・シンポジウムを反映したものになっております。これは、すでに一般会員の皆様のお手元に届いていることと存じます。まだお持ちでない学生会員の方は、半額でお分けしておりますので、この機会に是非、お求めください。

2 つめは、長い間の懸案事項でありました春季大会ですが、実質的な討論の時間の確保と紀要論文投稿へのモチベーションを高めるという方向のもとに発展的に解消しまして、春季研究会にスリム化しました。

3 つめは、5 月に台湾の国立暨南国際大学と共催で「第 5 回東アジア大学院生国際シンポジウム及び比較教育古典名著フォーラム」を開催しました。これは、春の大型連休の中日にもかかわらず、日本から 21 名の会員が参集し研究発表を行い、非常に盛会でした。第 20 期を振り返り、次の 25 周年に向けて中継ぎ役として多少なりとも責任を果たせたのではないかと自負しております。

今期も引き続き、会長を仰せつかり、次の 25 周年、30 周年に向けて本学会がさらに飛躍できるよう、つなぎ役としての責務を遂行できるよう気を引き締めているところであります。もう一期お付き合いをいただき、ご支援・ご教導を賜りますようお願い申し上げます。

さて、学会というのは 30 年経ったときに学会としての品格が問われると聞き及びます。また、学会誌の評価もだいたい 30 号で決まるといわれます(目下、市販化も視野に入れて検討中です)。そのときに向け、一つは、全国的に高い認知度が得られるような学会にすること、二つに若い研究者にとって希望のもてる学会になっているようにすることが、会長としての私の務めだと考えます。

また、今回もいくつかの学会規則の改定を提案させていただきました。規定も時間が経過するにつれ改訂の必要がでてきます。たとえば、地域主権の問題も取りざたされる現今ですが、首都圏以外の地域の会員の学会運営への参画をどうするかという問題を議論の俎上にあげたいと考えております。学会も多様な会員の集合体です。全国的な学会として発展していくために、地域の視点も視野に入れて名実ともに国際性豊かな学会になるように皆で育てていければと願っております。仙台での本大会開催を機に首都圏以外の地域の会員にもこれまで以上に学会の運営に携わっていただければ幸いです。

理事会での報告によりますと 8 月現在で会員数が 284 名になりました。300 名まであと一歩というところまできました。私の在任中に何とか達成できればと願っております。初代会長は、この学会は横滑りすることはないが、倒れることはあるといわれたそうです（2003 年春季研究大会報告より）。これまで何とか倒れないで（破綻しないで）やってまいりましたが、将来、会員数が 500 になれば財政的にも安定しますし、年報の隔年発行も可能になります。そのために、本学会の魅力を新入会員の獲得に向けどう発信していくかが本学会の次の時代に向けての課題の一つであると考えます。新たな会員獲得に向けてより一層のご支援・ご協働を賜りますようお願い申し上げます。

おかげ様で、来年の春季研究会は江原裕美会員から帝京大学での開催をご快諾いただいております。より多くの若い会員の皆様の研究発表をお待ちしております。また、秋の研究大会は岩﨑正吾会員ご在職の首都大学東京での開催がすでに内定いたしております。次

の研究大会に向けてご提案・ご要望等がありましたら事務局のほうにお寄せいただければ幸甚です。

最後に、春季の研究会・秋季の研究大会を成功裏に収めるためにも会員の皆様方多数のお力添えをいただくことを期待しまして私のご挨拶に代えさせていただきます。

第 21 回 大 会 報 告

1. 日本国際教育学会第 21 回大会実行委員会報告

大会実行委員長　牛渡　淳（仙台白百合女子大学）
大会事務局長　大迫　章史（仙台白百合女子大学）

日本国際教育学会第 21 回大会は、2010 年 9 月 11 日（土）・12 日（日）に、東北の杜の都仙台にあります仙台白百合女子大学において行われました

1 日目は、午前中に二つの基調講演が行われました。基調講演では、仙台白百合女子大学名誉教授・東北大学名誉教授、文化功労者の岩田靖夫先生による「希望のそよ風－世界平和の実現に向けて－」が、講演では、台湾の国立暨南国際大学副教授の楊武勲先生による「台湾高等教育機関における華僑子女の受け入れ戦略と課題」と題する講演が行われました。グローバル化した現代世界の平和と大学教育の動向について深く考えさせられるお話でした。午後は、4 部会に分かれ、世界各国の様々な教育問題に関する自由研究発表が行われました。総会の後、夜には、大学食堂「ステラマリス」において懇親会が行われました。大会校挨拶に始まり参加者からのスピーチ、ギター演奏や能の舞などの余興などがあり、また、仙台の地酒や海産物、牛タンなどを味わい、楽しい会となりました。

2 日目には、午前中に 4 部会に分かれて自由研究発表が行われました。午後は、課題研究「生涯学力形成のメカニズムに関する比較研究」（発表者：下村隆之、児玉奈々、金塚基）が行われ、オーストラリア、カナダ、中国における学力に関する研究報告が行われました。

今回の大会には、35 件の発表申し込みがあり、両日合わせて 60 名を超す参加者がありました。地方大会としては大変多くの会員の方に参加して頂きました。ありがとうございました。中でも、台湾からの発表が多くあったことが特徴的でありました。台湾の会員の方々に御礼を申し上げます。また、今年の夏は全国的な猛暑のため、仙台も例外ではなく 9 月に入っても 30 度を超す日が続き暑さが心配されましたが、当日は、幸い、暑さも和らぎ、過ごしやすく、会員の皆様の活発な研究発表と質疑が行われました。大会開催校としても、大変安堵しました。来年度もまた、会員の皆様と、首都大学東京での第 22 回大会でお目にかかれることを楽しみにしております。最後に、日本国際教育学会の今後のますますの発展をお祈りいたします。

2. 秋季大会の感想

日本国際教育学会第 21 回大会に参加して

伊藤直哉（国立暨南国際大学）

今年も昨年に引き続き日本国際教育学会において発表のチャンスを頂きまして大変感謝をしております。今年も昨年同様日本国際教育学会の会員の皆様方とお会いできるのを楽しみに日本に向かいました。私は只今、台湾に留学中の留学生であります。そのため今回の論文もこの留学生の立場を利用した内容として台湾の高等教育に関する「台湾の大学における日本研究及び日本留学に関する一考察」というテーマで論文の発表をさせて頂きました。

今回、私自身が最も印象に残ったのは、私の論文発表後に会員の皆様から論文に関する様々なご指摘を頂き、皆様より色々なことを教わる事になった事であります。会員の皆様からのご指摘の内容は、非常に的をつくものでありました。私自身思いもつかぬ質問内容でもありました。その為私自身も自分の論文に対しての更なる研究が必要な部分を発見する事が出来ました。私にこのような研究する機会を与えて頂き感謝をしております。私が思うに、このような学会での論文発表を通し、お互いがディスカッションすることにより、情報交換が行われ、お互いの学問水準、そして学会全体の研究水準の向上にも繋がると考えております。その為いつも学会に参加させて頂く度に、私自身、更なる能力の向上を目指して頑張っていこうという気にさせられます。

更には学会の大会だけではなく、懇親会などの場で会員の皆様と有意義な時間を過ごさせて頂きました。日本で行われる懇親会は、台湾で行われる懇親会とはまた違い、懇親会の雰囲気はお互いがより深い親睦を深めるのにまさに最適な場所でありました。私もこの懇親会の場で、たくさんの方々と交流及び名刺交換をさせて頂きました。このような機会を与えて頂き大変感謝をしております。

最後に学会の役員の皆様及び会員の皆様のご協力があり、今回の私の発表も無事終了することが出来ました。また機会があれば再び大会にて皆様と交流が出来る日が来るのを楽しみにしております。

日本国際教育学会第 21 回秋季大会に参加して

孫　儀（早稲田大学大学院）

この度参加した第 21 回秋季大会は、私にとって二回目の秋季大会となります。大会は 9 月上旬の爽やかな秋に仙台白百合女子大学で、二日間を渡って開催されていました。仙台は私自身にとって、12 年ぶりでした。当時二年間も過ごした町で、やや里帰り気分でもありました。再び秋の大会に参加できる喜びと、心地よい緊張感に包まれながら、仙台白百合女子大学の校門へ踏みました。

この大会を通して、欧米からアジア各地の「多文化・国際化」教育政策、および教育実態を知ることができて、非常に意義深い大会でした。

私は今回自由研究発表で中国における族群教育政策について発表しました。司会の児玉先生の和やかな進行のお陰で、時間内になんとか発表を終えることができました。発表後、皆様から今後の研究についての良いアドバイス・助言も多くいただき、収穫の多い大会となりました。学会で自己の研究を発表したこと、発表を日本語で行ったことは今でも励みになっています。そして何よりも、学会の海内、海外の会員の皆様にお目にかかれたこと

は幸いです。
　このような機会を持つことができましたのも大会事務局皆様のお陰です。大会事務局のご尽力を心から御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。また来年の大会も楽しみにしています。

3.　大会収支報告

収入		
項目	金額	備考
大会補助費	150,000	
大会参加費	195,000	3000×65 名
懇親会費・弁当代	140,000	
広告料	35,000	
合計	520,000	

支出		
項目	金額	備考
印刷代	68,145	発表要旨集録等
送料	60,860	大会案内・プログラム等の発送
謝礼等	23,300	
懇親会費・弁当代	193,250	
備品・消耗品	16,623	文房具等
合計	362,178	

残金は学会事務局に送金する

4.　日本国際教育学会第 21 回総会議事録

日時：2010 年 9 月 11 日（土）16 時～17 時 15 分
会場：仙台白百合女子大学 5 号館 531 室

・開会の辞 江原裕美理事

・第 21 回大会実行委員長牛渡淳実行委員長（仙台白百合女子大・学部長）より挨拶があった。次に、学会長の前田耕司会長より挨拶があり、会場校への感謝とともに台湾との交流

を含めた本学会の発展(会員数計 284 名)・活動などについて言及があった。

・本総会の成立について、大迫章史事務局長より出席者 44 名（19 名委任状）の確認があり、総会成立要件の出席者数 103 名にとどかないため、日本国際教育学会規則第 5 条の(3)の規定が適用される旨の報告・確認がなされた。

・議長選出について
　会場からの立候補・推薦者の提案がなかったため、学会理事会から推薦された山崎直也会員、鴨川明子会員の議長承認、決定がなされた。

Ⅰ．報告、承認、決議事項
議長：山崎直也会員
（1）2009 年度（2009 年 8 月 1 日～2010 年 7 月 31 日）事業報告について
・大迫事務局長より 2009 年度活動報告が配布資料に基づいて説明され承認された。
・大迫事務局長より 2009 年度決算報告について配布資料に基づき報告、承認された。
・渡辺幸倫前会計監査より 2009 年度会計監査の決算報告があり、承認された。
・紀要第 16 号について、前編集委員会長平岡さつき会員より発行の報告、および紀要第 15 号の表紙訂正シールに関する報告があり、確認された。
・紀要第 17 号編集方針について、佐藤千津理事より、本学会の顔としてより質の高い紀要の編集を心がける旨が報告された。

（2）役員選挙結果について
・役員選挙結果報告について、佐藤隆之前選挙管理委員長より選挙集計状況および結果に関して、配布資料に基づき報告され承認された。
・新役員等の紹介と役割担当について、大迫事務局長より配布資料の通り報告され承認された。また、志賀幹郎紀要編集委員長が辞退のため、理事会における佐藤千津紀要編集委員長の選出決定が報告され承認された。
・会計監査の選任について、会場からの推薦等がなかったため、理事会推薦案である栗栖淳会員、平岡さつき会員の選出が承認、決定された。
・選挙管理委員長の選任については次回第 22 回研究大会における総会決定事項とすることが確認された。

Ⅱ．審議事項
　議長：鴨川明子会員
（1）2010 年度（2010 年８月 1 日～2011 年 7 月 31 日）事業計画（案）
・大迫事務局長より 2010 年度活動計画（案）について、配布資料にしたがって説明・報告があり、承認された。
・大迫事務局長より 2010 年度予算（案）について配布資料にしたがって報告され承認され　た。
・学会規則等の改正について、岩﨑正吾副会長より配布資料（別紙）にしたがって役員選挙規定の改定案に関する説明があった。改定案は承認され決定された。

（2）2010 年度春季研究会の開催校について、江原裕美理事より帝京大学において開催される予定であることが報告、承認された。

（3）第 22 回研究大会の開催校について、岩﨑正吾理事から首都大学東京において開催される旨が報告、承認された。

（4）その他、審議事項は挙げられなかった。

閉会の辞
岩﨑正吾理事より、閉会の辞が述べられた。

以上

5. 2009 年度（21 期）決算報告

2009年度決算報告

日本国際教育学会　2009年度（21期）決算報告
（2009年8月1日から2010年7月31日）

収入の部

費目	予算	決算	備考
前年度繰越金	1,185,936	1,185,936	
会費	900,000	1,075,000	正会員82万円、学生会員22万円、賛助会員3万5千円
利子	10	112	
紀要販売	60,000	50,400	新刊12冊　既刊1冊 記念号 8冊
寄付金	0	0	
20周年記念年報積立金	250,000	250,000	2004年～2008年度分
雑収入	0	260,000	20周年記念年報執筆者個人負担金
合計	2,395,946	2,821,448	

支出の部

費目	予算	決算	備考
交通費	5,000	40,020	発送作業・会計監査
消耗費	40,000	48,366	封筒・切手・用紙代など
郵送費	100,000	75,120	紀要発送・メール便代など
会合費	40,000	73,170	理事会・紀要編集委員会弁当代
大会開催補助費	150,000	0	秋季大会補助費
庶務費	60,000	43,706	コピー・手数料代
印刷費	550,000	432,050	紀要・ニューズレターなど
予備費	50,000	0	
謝礼費	0	0	講演料
20周年記念本	250,000	740,240	積立金25万円使用（5年分）
次年度繰越金	1,100,946	1,318,776	
25周年積立金	50,000	50,000	2009年度分
合計	2,395,946	2,821,448	

25周年記念積立金

費目	予算	決算
前年度繰越金	0	0
今年度積立金	50,000	50,000
合計	50,000	50,000

次年度繰越金（収入－支出分）

	金額
郵便局【普通】	44,480
郵便局【会費納入用】	547,236
銀行【普通】	685,949
現金	41,111
合計	1,318,776

上記の通り報告致します。
2010年8月22日　事務局長 [illegible]

監査の結果、正確であったことを認めます。
2010年8月22日　会計監査 [illegible]
2010年8月22日　会計監査 [illegible]

日本国際教育学会　**2010** 年度（**22** 期）予算案
（期間　**2010** 年 **8** 月 **1** 日から **2011** 年 **7** 月 **31** 日）

収入の部

項目	予算	詳細
前年度繰越金	1,318,776	
会費	900,000	正会員 10,000×70 口　学生会員 5,000×40 口
利子	10	郵便貯金利子
紀要販売	60,000	機関・個人購読 3,000×20 口
寄付金	0	
雑収入	0	
収入合計	2,278,786	

支出の部

項目	予算	詳細
交通費	5,000	発送作業・会計監査交通費
消耗品費	40,000	封筒・切手・用紙代など
郵送費	100,000	紀要発送・メール便代など
会合費	40,000	理事会・紀要編集委員会弁当代
大会開催補助費	150,000	大会開催補助費
庶務費	60,000	コピー代、手数料代
印刷費	550,000	紀要・ニューズレターなど
予備費	50,000	
次年度繰越金	1,233,786	
20 周年記念企画積立	50,000	2010 年度分
支出合計	2,278,786	

20 周年記念企画積立

前年度繰越金	50,000	2009 年度分

6. 2010－2011 年度役員一覧

役職	氏名	所属	担当	国籍
会長	前田 耕司	早稲田大学		日本
副会長	岩﨑 正吾	首都大学東京	規程・研究大会	日本
理事	江原 裕美	帝京大学	春季研究会	日本
同	岡田 昭人	東京外国語大学	研究	日本
同	金塚 基	東京未来大学	理事会議事録	日本
同	佐藤 千津	東京学芸大学	紀要編集	日本
同	志賀 幹郎	電気通信大学		日本
同	ロバート・アスピノール	滋賀大学	研究	英国

同	裘 暁蘭	上海社会科学院 青少年研究所	ニューズレター	中国
同	鄭 任智	早稲田大学 （非常勤）	国際交流	台湾
同	朴 三石	朝鮮大学校	春季研究会	朝鮮
同	グレゴリー・プール	同志社大学	研究	米国
同	山口 アンナ 真美	北海道教育大学 （外国人研究員）	ニューズレター	ブラジル
特任理事	牛渡 淳	仙台白百合女子大学		日本
特任理事	楊 武勲	国立暨南国際大学		台湾
事務局長	大迫 章史	仙台白百合女子大学		—
事務局次長	児玉 奈々	滋賀大学	ホームページ	—
事務局幹事	郭 恬	東京外国語大学 （院生）	名簿管理	—
同	金井 里弥	東北大学（院生）	会計	—
同	木田 竜太郎	早稲田大学（院生）	連絡調整・研究大会	—
同	高橋 春菜	東北大学（院生）	会計	—
紀要編集委員会委員長	佐藤 千津	東京学芸大学		—
同 副委員長	入澤 充	群馬大学		—
同 幹事	—	—		—
会計監査	栗栖 淳	国士舘大学		—
同	平岡 さつき	共愛学園前橋国際大学		—
選挙管理委員長	—	—		—
名誉理事（国内）	石川 啓二	山梨大学		—
名誉理事（海外）	—	—		—
顧問	—	—		—

2011 年春季研究大会のご案内

大会実行委員長　江原　裕美　（帝京大学）

春季研究会を下記の要領で開催致しますのでご案内申し上げます。春季研究会へと名称が変更されてから第 2 回目の 2011 年、「若手を育てる」「研究内容についての実質的な議

論ができる時間を多くとる」という目的に向け、ご満足頂けるような研究会にすべく努力致しますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。
　特に優秀な発表は春季研究会から学会紀要へ推薦致します。
　自由研究発表を中心に活発な議論が交わされますよう、多くの方々のご参加をお待ちしております。皆様ふるってご参加ください。

１．日時
2011年3月19日（土）午前10時～午後5時30分（予定）
（大会プログラム等の詳細葉2011年2月中にウェブサイト、メール、郵送便等にてお知らせ致します。）

２．場所
帝京大学　〒192-0395 東京都八王子市大塚359　　京王線聖蹟桜ヶ丘駅（新宿より特急で約30分）、同高幡不動駅、同多摩センター駅よりバスあり。
　路線・マップ　下記をご参照下さい。
　http://www.teikyo-u.ac.jp/applicants/guidance/access/hachioji/index.html

３．参加費・懇親会費等
参加費　　一般2000円　　学生1000円
懇親会費　一般4000円　　学生2000円

４．自由研究発表および研究会参加申し込み
自由研究発表申し込み期限　　2011年2月3日（金）
研究会参加申し込み期限　　2011年3月14日（月）
当日参加可能ですが、人数把握のため申し込み下さると助かります。発表及び大会参加希望者は、「**1. 氏名、2. 所属、3. 連絡先（住所、携帯電話番号とメールアドレス）、4. 発表または参加の別、5. 発表タイトル(発表者のみ)、6. 使用機器（発表者のみ）、7. 弁当注文の必要の有無、 8. 懇親会参加の有無**」をメール本文に記載し、実行委員会事務局長土屋千尋（つちやちひろ）までお申し込み下さい。できるだけメールにてお願いします。郵送の場合は上記項目を記載の上、下記住所までお送り下さい。なお発表者は会員に限られますので、非会員で発表をご希望の方は入会手続きを
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jies/nyukai.html　よりお済ませ下さい。
なお後日、発表者には、発表要旨（A4×2枚）をご提出頂きます。

５．学会紀要への推薦論文の提出締め切り日について
学会紀要に推薦されました場合、完成原稿の投稿締め切りは紀要編集の都合上、紀要編集委員会まで、**3 月 31 日（木）（必着）**となります。締め切りまでの期間が短いので、ご注意願います。

６．お問い合わせ先
春季研究会用メールアドレス　jies11sp@main.teikyo-u.ac.jp
住所〒192-0395
　東京都八王子市大塚 359
　帝京大学文学部教育学科内
　日本国際教育学会春季研究会準備委員会事務局長　土屋千尋（つちやちひろ）
　電話番号　土屋：042-678-3275　携帯 090-9016-1074
　　江原：042-678-3596　携帯 090-6476-1709

事 務 局 だ よ り

1. 連絡先・ご所属変更をお知らせ下さい.

4 月からの新年度を迎え，所属変更にともない会員資格に変更がある方，連絡先が変更になる方がおられましたら，事務局長までメール(ohsako@sendai-shirayuri.ac.jp)にご一報下さい.

2. 新入会員紹介

2009 年度第 2 回（2009 年 12 月 12 日開催），第 3 回（2010 年 3 月 27 日開催），2010 年度第 1 回（2010 年度 7 月 3 日開催），第 2 回（2010 年 9 月 11 日開催），第 3 回（2010 年 11 月 6 日開催）の常任理事会で入会を承認された新入会員の皆様をご紹介します.

氏名	所属	会員の種別	国籍
入澤　充	群馬大学	正会員	日本
烏　力更	仏教大学（院生）	学生正会員	中国
大野　里香子	早稲田大学（院生）	学生正会員	日本
K. C. RITA	東京外国語大学（院生）	学生正会員	ネパール
小林　美由岐	東京学芸大学（院生） 国立情報学研究所（職員）	学生正会員	日本
坂本　麻裕子	名古屋大学（院生）	学生正会員	日本
下村　隆之	シドニー大学（院生）	学生正会員	日本
申　育誠	東北大学（院生）	学生正会員	台湾
鈴木 賀映子	早稲田大学（院生）	学生正会員	日本
薛　格芳	明星大学（院生）	学生正会員	台湾
髙山　和孝	早稲田大学（院生）	学生正会員	日本
張　鵬	早稲田大学（院生）	学生正会員	中国
樋口　くみ子	一橋大学（院生）	学生正会員	日本
丸井　ふみ子	東京外国語大学（院生）	学生正会員	日本
三輪　千明	浜松学院大学	正会員	日本
茂住　和世	東京情報大学	正会員	日本
楊　殿閣	東京外国語大学（院生）	学生正会員	日本
荘　明貞	国立台北教育大学	正会員	台湾
木田　竜太郎	早稲田大学（院生）	学生正会員	日本
岡野　かおり	ラトローブ大学	正会員	オーストラリア
盧　英娟	国立暨南国際大学	正会員	台湾
金井　里弥	東北大学（院生）	学生正会員	日本
當山　明華	東北大学（院生）	学生正会員	日本
高橋　春菜	東北大学（院生）	学生正会員	日本
郭　喬雯	国立暨南国際大学（院生）	学生正会員	台湾
呉　金春	国立暨南国際大学	正会員	台湾
胡　玉真	国立暨南国際大学	正会員	台湾
蘇 琬婷	国立暨南国際大学（院生）	学生正会員	台湾
張　瓊文	国立暨南国際大学（院生）	学生正会員	台湾

陳　尚義	国立暨南国際大学（院生）	学生正会員	台湾
陳　詩鈴	国立暨南国際大学（院生）	学生正会員	台湾
劉　保中	国立暨南国際大学（院生）	学生正会員	台湾
劉 士銘	国立暨南国際大学（院生）	学生正会員	台湾
Hung,Jung Liang	国立暨南国際大学（院生）	学生正会員	台湾
Cheng,I-Hsuan	国立暨南国際大学	正会員	台湾
Hsiao-Wen Yu	国立暨南国際大学	正会員	台湾
Cheng Ying, Wu	国立暨南国際大学（院生）	学生正会員	台湾
Hui Hsia, Chin	国立暨南国際大学（院生）	学生正会員	台湾
Fang-Shen Chiang	国立暨南国際大学	正会員	台湾
Yi-Fang Lee	国立暨南国際大学	正会員	台湾

日本国際教育学会紀要『国際教育』第 17 号原稿募集

日本国際教育学会紀要編集委員会では『国際教育』第 17 号の発刊に際し，自由投稿論文、研究ノート、調査報告、教育情報、資料紹介を募集いたします（2011 年 3 月 1 日必着)。投稿希望の会員は下記の要領にしたがって投稿して下さい。

なお、紀要第 16 号に掲載の投稿要領に変更がありますので、ご留意下さい。投稿締切日（当日必着とします)、投稿論文のページ数制限および二重投稿・連続投稿に関する要領を改訂しました。下線部分をご参照下さい。また投稿原稿の送付先も変わりました。

１．投稿要領（論文・その他）

（１）投稿資格は、日本国際教育学会の会員に限られる。投稿に際して、入会審査が完了していること、当該年度の会費を完納していることが投稿の条件となる。

（２）論文のテーマは日本国際教育学会活動の趣旨に沿うものとする。

（３）掲載論文は、口頭発表の場合を除き，未発表のものに限る。

（４）使用言語は、日本語、英語、中国語のいずれかとする。

（５）他の学会誌や研究紀要などへの投稿原稿と著しく重複する内容の原稿を本誌に併行して投稿することは認めない。

（６）前号に論文が採用された者の連続投稿は原則として認めない。

（７）①原稿は、図や表、脚注を含めて全て横書き、ワープロ書き、10.5 ポイントとし、Ａ4 版を使用することとする。

②和文、中文は、1 行 40 字×40 行(1,600 字)で印字する。英文はダブル・スペース 22 行とする。

③執筆文量は、以下の表の通りとする。

投稿原稿の別	概要	ページ数制限
論文（Research Paper）	国際教育に関する理論的知見を伴う研究成果	和文 10 ページ以内 英文 23 ページ以内 中文 6 ページ以内
研究ノート（Research Note）	論文に準じ、断片的に得られた研究成果、調査成果	和文 5 ページ以内 英文 15 ページ以内 中文　3 ページ以内
調査報告（Research Report）	国際教育に関する調査の報告	
教育情報（Research Information）	国際教育の参考となる研究・実践・政策等に関する情報	
資料紹介（Data）	国際教育の参考となる資料の紹介	

また、英文原稿は American Psychological Association's Manual of Style, 4th　Edition に準拠する。

④題目は 12 ポイントとし、日本語・中国語の場合は副題も含めて 30 文字以内、英語の場合は 15 words 以内とする。

（８）投稿原稿には和文論文には英語 500 語以内の要旨、英語・中国語論文には日本語の要旨（A4×1 枚程度。字数は（７）に準拠する)を添付し、原稿と要旨を各 3 部(うち 2 部は複写、匿名とする)提出する。電子ファイルのみによる投稿は受け付けない。

（９）投稿原稿は 2011 年 3 月 1 日（必着）までに、紀要編集委員会宛に提出するものとする。投稿原稿は、紀要編集委員会において審査を行い、採択、修正再審査、不採択が決定され、投稿者に通知される。修正再審査の場合、定められた期間内での原稿の修正の権利が与えられる。なお、採用原稿に関しては原稿（ハードコピー）とともに電子ファイル原稿（英文要旨を含む）も提出すること。

（１０）投稿に際しては、十分に推敲を行うこと。特に外国語を使用する場合、誤字・誤記あるいは文法的誤りのないように十全の準備を行い投稿すること。

２．　問い合わせ先・原稿送付先

日本国際教育学会紀要編集委員会
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1
東京学芸大学 教員養成評価プロジェクト推進本部　佐藤千津研究室気付
TEL： 042-329-7741（直通）
E-mail： chizus※u-gakugei.ac.jp（ 印を＠に変えて送信して下さい。）

ADDITIONAL GUIDELINES FOR ENGLISH MANUSCRIPTS

CALL FOR PAPERS: JOURNAL of INTERNATIONAL EDUCATION, Volume 17

Submissions to the 17th edition of the Journal of International Education are now being accepted, with a deadline of March 1, 2011. Authors making submissions in English should review the following guidelines:

1. Manuscripts can include research articles and research notes, both of which must be original work of the author(s). Journal of International Education (JIE) considers all manuscripts on the

strict condition that they have been submitted only to JIE, that they have not been published already, nor are they under consideration for publication elsewhere.

2. Authors whose papers were accepted in the previous year cannot submit in the present year.
3. Papers should be double spaced, submitted on A4-size paper, contain twenty-two lines per page, and be no longer than twenty-three pages in total length. Margins on the top, bottom, and sides should be no shorter than 2.5 centimeters (i.e., one inch).
4. For general guidelines on appropriate style and format, please refer to the Publication Manual of the American Psychological Association.

   Example:

   Smith, J. (2000). *The educational challenges of the new century*. New York: Broadway Publishing.

   Pavil, S. (1997). Capitalizing on cultural capital: The movement of knowledge through corporations. *Harvard Business Journal*, 14 (1), 654-675.
5. Three copies should be submitted to the Editorial Committee for review. One copy should include the author's name, address, institutional affiliation, and phone number on the cover, and the other two should include only the title in order to maintain the author's anonymity. An electronic version should also be included.
6. All English manuscripts must include a Japanese abstract that is one page in length (A4 size).
7. All manuscripts will be accepted without revisions; accepted conditionally, with stipulations for more revisions; or rejected. In the case of conditional acceptance, the Editorial Committee reserves the right to reject a manuscript after revisions have been made if revisions are deemed insufficient.

   Once the manuscript is accepted for the publication, author should submit the revised electronic version (including Japanese abstract).
8. All authors are encouraged to have their manuscript copy-edited before submitting the paper, especially authors for whom English is a foreign language. Writers who submit manuscripts that have typographical and/or grammatical errors risk having their papers rejected. Electronic-only versions of manuscripts will not be accepted.

Please send all submissions by postal mail to:

Dr. Chizu Sato, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184-8501 Japan,

Inquiries about the journal may be directed to Dr. Sato by e-mail (chizus[at]u-gakugei.ac.jp) or telephone (+81-423-329-7741).

日本国際教育学会紀要『国際教育』第 **17** 号

（**2011** 年春季研究会推薦論文）投稿要領

日本国際教育学会紀要『国際教育』第17 号の「春季研究会推薦論文」への投稿要領は以下の通りです。投稿される方は以下の要領に従って投稿して下さい。投稿資格は、2011年春季研究会で発表を行った会員のうち、2011 年春季研究会実行委員会から優秀発表者とし

て推薦され、かつ投稿を希望する方に限られます。また、当該年度までの会費を完納していることが条件となります。春季研究会開催日から投稿締切日までの期間が短くなっておりますので、ご留意下さい。

１．投稿要領

（１）論文のテーマは春季研究会での発表と同一のものとする。

（２）論文の内容は発表内容に基づき、春季研究会での質疑応答の成果を反映させたものとする。

（３）投稿論文は、春季研究会での発表を除き、未発表のものに限る。

（４）使用言語は、日本語、英語、中国語のいずれかとする。

（５）①原稿は、図や表、脚注を含めて全て横書き、ワープロ書き、10.5 ポイントとし、A4 判を使用することとする。

②和文、中文は、1 行40 字×40行（1,600 字）で印字する。英文はダブル・スペースで22 行とする。

③執筆文量は、以下の通りとする。

投稿原稿の別	内　容	ページ数制限
2011 年春季研究会推薦論文	春季研究会で推薦を受けた発表内容を発展させたもの	和文5ページ以内 英文15ページ以内 中文3ページ以内

また、英文原稿はAmerican Psychological Association’s Manual of Style, 4th Edition に準拠する。

④題目は12 ポイントとし、日本語・中国語の場合は副題も含めて30 文字以内、英語の場合は15 words 以内とする。

（６）投稿原稿には和文論文には英語500 語以内の要旨、英語・中国語論文には日本語の要旨（A4 判×1 枚程度。字数は（５）に準拠する）を添付し、原稿と要旨を各３部（うち2 部は複写可、匿名とする）提出する。

（７）投稿原稿は2011年3 月末日（必着）までに、紀要編集委員会宛に提出するものとする。投稿原稿は、紀要編集委員会において審査を行い、採択、一部修正により採択、不採択が決定され、投稿者に通知される。修正再審査の場合、定められた期間内での原稿の修正の権利が与えられる。なお、採用原稿に関しては原稿（ハードコピー）とともに電子ファイル原稿（英文要旨を含む）も、CD-R に保存の上、提出すること。

２．　問い合わせ・原稿送付先

日本国際教育学会紀要編集委員会
〒184-8501　東京都小金井市貫井北町４―１―１
東京学芸大学 教員養成評価プロジェクト推進本部 佐藤千津研究室気付
TEL：　042-329-7741（直通）
E-mail：　chizus※u-gakugei.ac.jp（※印を＠に変えて送信して下さい。）

図　書　紹　介

日本国際教育学会創立 20 周年記念年報編集委員会編『国際教育学の展開と多文化共生』学文社、2010

当日本国際教育学会の創立 20 周年記念年報である本書は、2009 年 9 月に東京外国語大学で開催された第 20 回研究大会（大会テーマ：国際教育学の展開と多文化共生）と連動している。

本書に収められている論文 13 編のうち 10 編は、第 20 回研究大会のシンポジウム、課題研究の各報告書である。内訳は、シンポジウム＜国際教育学の枠組みと多文化共生＞から「先住民族をめぐる教育政策の課題と国際教育学の視座」「グローバル化における国際教育と『多文化共生』」の２編、３つの課題研究のうち①＜多文化共生社会におけるコミュニティと国際教育＞から「多文化共生社会におけるコミュニティと国際教育」「日本社会の多文化化に伴う教育上の課題と東京外国語大学の取組み―国際教育学への期待」「英国における『コミュニティの結束』政策とエスニック･マイノリティの教育」の３編、②＜職業教育の日中比較研究＞から「激烈な生徒争奪戦を繰り広げる中国の中等職業学校」「中国における観光業中等職業学校の設立と発展―70-80 年代に設立された伝統校数校を事例として」の２編、③＜生涯学力形成のメカニズムに関する比較研究＞から「生涯学力と学力政策―イギリスの学校における『拡張サービス（extended service）』の取り組み」「学力政策と『普遍的学習行為』の形成―ロシアの場合」「生涯学力形成と学校教育―日本の場合」の３編となっている。この 10 編に自由研究発表から公募・審査を経て掲載の決定した論文 3 本「中国の流動人口における養育環境―パーソナル・ネットワークとの関連において」「台湾の日本統治時代における『國語』教科書に見られる原住民の記述に関する考察」「オーストラリアの博物館における民族文化に関する活動―遺骨･遺物の返還を中心として」を加え、巻末には「日本国際教育学会 20 年のあゆみ」が配されている。

本書の大きな特色は、各論文を通じ、設立当時から変わらない当学会のアイデンティティ、研究ポリシー／スタンスが各会員に貫かれていることと、20 年来の研究成果として国際教育学の新たな展開、新たな広がりの予兆が読み取れることにあると考える。学会員であるなしに関わらず、ぜひ、ご一読いただき、この 20 年で急激に変化した国際社会、国際関係、各国内での多文化化と目指すべき共生の方向など、「国際教育学」の今と昔、そして未来に思いを馳せていただきたい。

（早稲田大学大学院　大野里香子）

＊学会事務局より本書籍をまだ送付されていない場合、正会員は年会費をお支払いいただきますと無料で送付し、学生会員は、半額で購入できます。

日本国際教育学会　Newsletter No.22
編集発行　：日本国際教育学会　代表　前田耕司
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jies/
発行所　：〒981-3107　宮城県仙台市泉区本田町 6-1
仙台白百合女子大学　大迫章史研究室　気付
TEL：022-372-3254
E-mail：ohsako@sendai-shirayuri.ac.jp
発行年月日：2010 年 12 月 20 日